

# 話題 街に ひろう

# がんばろう日本

## みんなでがんばっぺ!

5月15日、牛久駅東口広場と西口エスカード牛久北広場を会場に「みんなでがんばっぺ! 東日本大震災復興支援牛久駅前チャリティーイベント」が開催されました。

このイベントは「ウシロック市民リーグ」の主催で行われ、被災地への復興支援と、市内の店舗の活性化を主な目的として行われました。会場を訪れた池辺勝幸市長は「東北や被災地の人々に牛久から応援の声を届けましょう」と元気よくあいさつ。会場内のライブステージでは音楽ライブやダンスの披露、地場産野菜の販売などが行われ、約2,000人の来場者が楽しみながらチャリティーに参加しました。

また、会場内には募金箱が置かれ、多くの方から募金が集まりました。この義援金21万8,881円は、日本赤十字社茨城支部を通じて寄付される予定です。



多くの人でにぎわう牛久駅東口広場

## チャリティー企画・元気市

5月14日、市中央生涯学習センター駐車場で牛久市商工会による「東日本大震災チャリティー企画・元気市」が開催されました。

このイベントは「まずは地域を元気に!そして被災地に元気を!」を合言葉に行われ、多くの家族連れでにぎわいました。会場内では地元産の野菜販売や「大抽選会」などが行われました。また、ワンコイン(100円)

チャリティーバザーではあんぱんや団子の売上金の一部が義援金となりました。



大盛況の「大抽選会」

## 被災地にランドセルを

向台小学校子ども会育成連合会では、ランドセルメーカー(株)協和の「がんばれ!被災地のこどもたち!みんなでランドセルを贈ろう!」の呼び掛けに応じて、この春の卒業生のランドセル約70個を集めました。

4月26日、(社)牛久青年会議所の皆さんに配送を協力してもらい、ランドセルを(株)協和の野田工場まで届けました。ランドセルは、この工場場で修理、再生して被災地に贈られます。6年間の思い出が詰まったランドセルが被災地の方々の役に立ちますように!





# わたりちょう 宮城県亶理町へ災害派遣



↑亶理町で特に被害を受けた地域。津波により、250人の尊い命が奪われ、いまだ20人が行方不明となっています。



災害ボランティアの方々

①第6次災害派遣隊・原田喜達さん、柴田清さん、②第7次災害派遣隊・長井英隆さん、山中英二さん、③第8次災害派遣隊・竹内満祐さん④第9次災害派遣隊・小野田充さん、渡井敏雄さん ※名前はそれぞれ写真左から。

市は、宮城県の要請を受けて、4月1日から28日にかけて宮城県亶理町へ災害派遣を行いました。また、市のボランティアも派遣隊に参加し、救援物資の仕分けや6カ所(現在は5カ所)の避難所に物資を搬入するなどの活動をしました(計9回)。

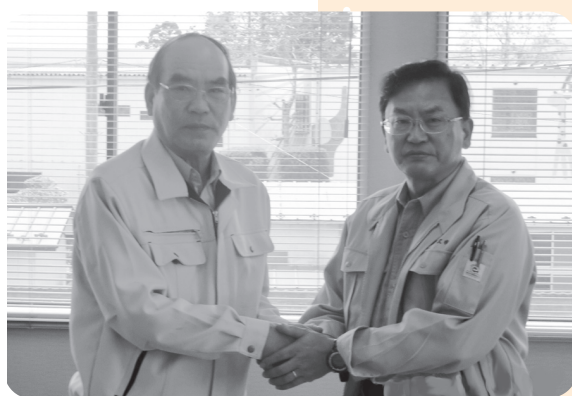
その後、亶理町の新たな要請を受けて、5月9日から30日にかけて保健師ら市職員が現地で戸別訪問を行い、保健活動を行いました(計7回)。



現地では、避難所での被災者の健康状態の確認を行うとともに、戸別訪問を行い、町民の健康状態の確認・指導などの活動をしました。

亶理町の新たな要請を受けて、5月9日から30日にかけて市保健師ら職員が亶理町で保健活動を行いました(上写真)。

## 市保健師による保健活動



池辺市長は、復旧現場と避難所を訪ねるとともに、齋藤邦夫町長(上写真左)を表敬訪問し、引き続き最大限の支援を約束しました。

## 池辺市長が亶理町を視察

東日本大震災により大きな被害を受け、当市から職員の派遣と物資の支援を実施している宮城県亶理町を5月2日から2日間、池辺勝幸市長が視察しました。



## 過疎地有償運送が開始

4月18日、NPO 法人サンライズの移送サービスが開始されました。このサービスは「過疎地有償運送」と呼ばれるもので、対象地域(久野町、桂町、井ノ岡町、奥原町、島田町、正直町、小坂町(小坂団地を除く)および福田町)の会員やその親族が市内の病院や各公共施設を利用するときなどに車による運送を受けられるサービスです。このサービスにより、公共交通機関だけでは交通空白地になる地区の利便性向上が期待されています。



サービス開始の当日、4人で市役所まで利用した本橋登美さん(久野町)は「これまでは病院に通うときには、家族に車で送り迎えしてもらっていたが、これからはこのサービスで便利になります」と喜んでいました。その他の方も「いままでは市の中心部まで1時間近く掛けて自転車で病院通いしていましたが、これからは天候などに左右されず通うことができます」と今後の活用方法に期待を寄せていました。



市役所まで利用された皆さん

NPO 法人サンライズの理事長本橋勇さんは「交通の便が悪くて困っている方に利用してもらいたい。入会していただければ、予約して誰でも利用できます。病院などに行く際も、家のドアから病院のドアまで送り迎えができます。また、市内全域をカバーしている点や運転手の親切で優しい対応が売りです」と今後の意気込みを語りました。

## 提携25周年記念ホワイトホース訪問

4月13日から19日にかけて、姉妹都市提携25周年を記念して、牛久市民団(団長・野口憲副市長)がカナダ・ホワイトホース市を訪問しました。

13日、一行はホワイトホース市役所での歓迎式にのぞみ、ベヴ・バックウェイ市長から歓迎のごあいさつと、震災の被害に対する温かい励ましの言葉をいただきました。現地では、ユーコン日系人協会を中心とする方々による震災募金も行われていました。帰路のバンクーバーでは、日本総領事館から招待を受け、訪問しました。

今回の訪問は姉妹都市交流に新たな1ページを刻み、市民団のメンバーは通常の観光旅行では味わうことのできない思い出をたくさん作って帰国しました。



さよならパーティーでホワイトホースの人たちと



関東大会出場を決めた東洋大牛久高校の「団体組手」

## 東洋大牛久高校空手部が関東大会出場権獲得

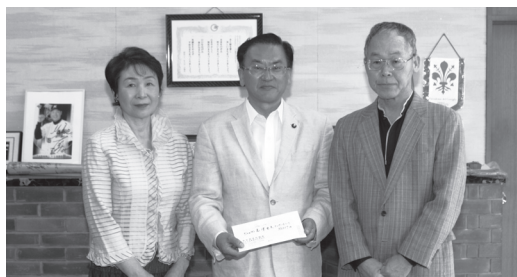
5月9・10日、東洋大学附属牛久高等学校体育館で「茨城県高等学校空手道春季大会兼第40回関東大会予選会」が開催されました。

10日には団体戦が行われ、団体組手決勝では、東洋大牛久高校が水戸商業高校と対戦。試合前に円陣を組んだ同校選手たちは「行くぞ」と声を出し気合を入れました。試合ではお互いに一步も引かず、突きや蹴りの応酬となり、観客からは「一発で終わるな。気を抜かずに攻めろ」などと声が掛かりました。大將戦までもつれる接戦となりましたが、惜しくも2対3で敗れ準優勝となりました。東洋大牛久高校空手部は、初日の男子個人組手で優勝した工藤尚哉さん(3年生)など、6種目で関東大会の出場権を獲得しました。

5月9日、牛久市地域女性団体連絡会から7万305円が寄付されました。



5月17日、牛久市文化協会・公演事業特別委員会から、5月15日に行われた「島津重矢コンサート」会場で募った3万8,017円が寄付されました。



4月28日、牛久地区班理容組合から7万5,000円が寄付されました。同組合は、平成7年の阪神・淡路大震災のときも義援金を集めた実績があり、今回も組合員25人全員から寄付を募りました。



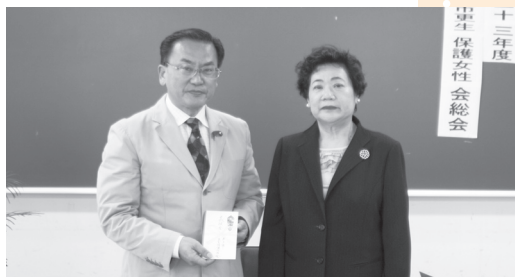
## 踊りを通じた社会貢献

5月7日、市中央生涯学習センターで「松井誠」率いる「劇団誠」が結成25周年記念公演を行い、収益の一部20万円を義援金として池辺勝幸市長に渡しました(右写真)。また、同日賛助出演し、会場内で募金活動を行った「日本のおどり座 座キッズ」(左写真)からも、5月16日、池辺市長に寄付金10万7,313円が渡されました。子どもたちは「募金してもらえてうれしかった。困っている人に少しでも役に立ててほしい」と話し、子どもたちに踊りを指導している華扇かせんはさんは「我々の踊りで少しでも世の中のお役に立てばうれしい」と語りました。

4月27日、常総学院高等学校父母の会牛久・龍ヶ崎支部から5万円が寄付されました。



4月27日、牛久市更正保護女性会から10万円の寄付がありました。小野寺治子会長は「今日お渡ししたこの義援金は何らかのお役に立てばうれしいです」と語りました。



4月20日、イズミヤ牛久店から6万903円が寄付されました。同社は、資源の無駄遣いをなくし、ごみを減らす「マイバッグ運動」を広めるため、レジ袋を有料で販売し、その収益金の半分以上を社会・環境活動に還元しています。



**寄付金のご協力ありがとうございます**  
「ふるさと応援寄付金」としていただいた寄付金は、皆さんの「希望により市の震災被害活動支援のために使われます。」







## 安全を願って防犯ブザーの寄贈

4月20日、常陽銀行から市内の新小学1年生に防犯ブザー770個が寄贈されました。この防犯ブザー寄付は常陽銀行が設立70周年を記念し平成17年から始めたもので、茨城県内と福島県の一部の新一年生に寄贈しています。寄贈に際し同行は「何が起こるか分からない時代です。新一年生には必ずブザーを持っていただき防犯対策に活用してほしいです」と話していました。



このコーナーでは、市民の皆さんから寄せられたイラストや俳句、川柳などを紹介しています。なお、お便りには住所と氏名、電話番号を記入してください。また、匿名希望の方は、その旨記入してください。ペンネームもOKです。

あて先：〒300-1292牛久市中央3-15-1

「広報うしくちょっと休憩」係

Eメール [shimin@city.ushiku.ibaraki.jp](mailto:shimin@city.ushiku.ibaraki.jp)

ちょっと  
休憩  
ぶれいく

## 皆さんのお便りから

私のところに、知人が尋ねてきました。福島県からの避難者が親戚宅にいるとのこと。「いつ福島県へ帰れるか分からない、4月から牛久の小学校へ転入しなければいけないが、ランドセルがない」とのこと。私はすぐに近所を探し歩きました。

いつものカバン屋さんに飛び込んで訳を話したら、「これを持って行って使ってください」とピカピカのランドセルを出してくれました。私は代金を支払おうとしましたが、カバン屋さんは「そういう事情なら使ってください」とのことでしたので、恐縮してありがたくそのランドセルをいただき、避難者へ渡しました。

カバン屋さんから優しさと希望を与えてもらいました。カバン屋さん、ありがとうございました。

平成23年3月 さくら台 二国さん

## 短歌・俳句・山柳コーナー

大津波奇跡一本白砂の松

下根町 藤田さん

新緑の夏はすぐそこ汗にじむ

刈谷 小山さん

旬の味筒ごはんゆうげ夕餉かな

栄町 増田さん

朝目覚め飛び去りし小鳥に手を振り

女化町 砂押さん

青空に生まれこぶし微笑む

桂町 木村さん

組内に二軒家建ち山笑ふ

神谷 井上さん

川沿につばなゆらゆら初夏の風

久野町 酒井さん

四季の豊かさ心に沁みて

日の丸見上げ感極まる

南 セイ子さん

見上げればバラのつぼみ大きくて

きつと咲くよたのしみだ

岡見町 別府さん



南・犬塚さん

イラスト、俳句、川柳など、毎月たくさんのお便りありがとうございます。紙面の都合上、すべてを掲載できない場合がありますが、今後もたくさんのお便りをお待ちしています。